

別紙

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

三井・デュポン ポリケミカル株式会社 大竹工場

(2) 事業所の所在地

広島県大竹市東栄二丁目1番21号

(3) 業種

1635 プラスチック製造業

(4) 事業所位置図

別紙1のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成24(2012)年度を基準年度とし、平成25(2013)年度から平成29(2017)年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

1 基本的な考え方

当社は、以下を企業理念として事業活動を展開していく。

- (1) 環境保全及び安全の確保は企業の社会的責任である。これらの確保なくして企業の発展と持続はない。
- (2) 高品質のサービスを提供することにより、広く社会に貢献する。

2 工場環境方針

- 限りある貴重な資源を有効に利用し、環境汚染の予防に努めるために次の項目を重点テーマとして推進する。
 - ・ 環境汚染物質の排出抑制
 - ・ 廃棄物の削減、再利用、リサイクル
 - ・ 省エネルギーの推進
- 環境に係わる法令及び協定等を遵守する。
- 環境方針達成のために具体的な環境目的及び目標を定め、計画的な推進及び見直しにより、環境マネジメントシステムの継続的改善を図る。
- 全ての従業員に環境方針を周知し、変化に対応した活動を推進する。
- 環境に関する社外活動、広報活動等により地域との共生を図る。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成24年度	直近年度 平成 年度
二酸化炭素	他人から供給された電気の使用	60,884	31,796	
	燃料の使用	7,596	3,773	
	他人から供給された熱の使用	3,867	5,175	
合 計		72,347	40,744	

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
二酸化炭素				
合 計				

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
メタン				
一酸化二窒素				
HFC PFC SF ₆				
合 計				

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)	削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				
非エネルギー起源CO ₂				
メタン				
一酸化二窒素				
フロン類				
温室効果ガス 実排出量総計				
温室効果ガス みなし排出量				
目標設定の考え方				

※ 削減率 (b) = (c) / (a) × 100 削減量 (c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量 (t-CO₂)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成24年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成29年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂							
品目A	非公開	非公開	1.415	4.4	算出 不可	計画未	1.35
品目B	非公開	非公開	1.127	2.7	算出 不可	計画未	1.10
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)			524.2	4.0			503.2

目標設定の考え方	原単位ベース年0.8%の削減率
----------	-----------------

※ 削減率(d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	電気及び蒸気使用量の削減	原単位を4%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー消費監視システムの活用による省エネアイテム検討 ・運転条件変更による省エネ推進 ・省エネ機器（高効率化）の導入検討 ・不要時の機器停止の徹底 ・冷暖房温度の適正管理 ・太陽光発電（ソーラーパネル）の導入検討
2			
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

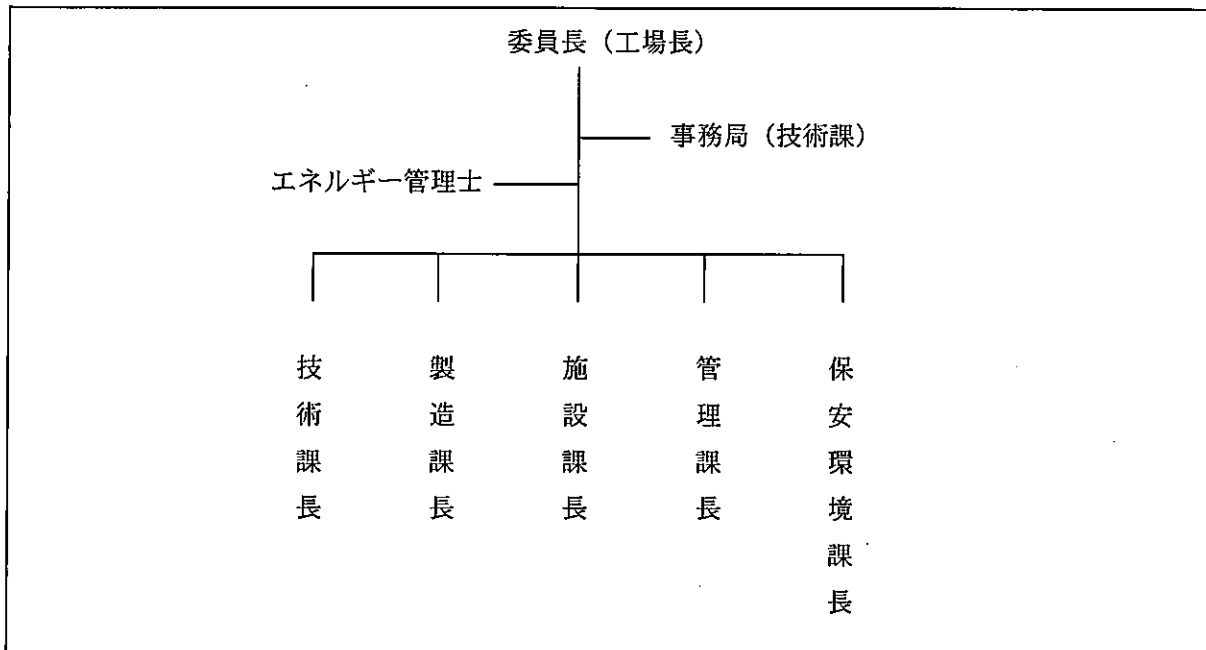
○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

エネルギー管理士を中心として、毎年、温室効果ガス削減計画の取組状況の把握・点検及び問題点の検討を行う。またエネルギー管理委員会において定期的に評価・見直し等を行い、継続的向上を図る。

(3) 計画書等の公表

閲覧場所 三井・デュポン ポリケミカル株式会社 大竹工場